

# ビタミンCと同時摂取で 還元型へ

## 「吸収型」として新たに提案

### シクロケム

シクロケム(東京都中央区、03・5614・7147)は、これまで

不安定性や厳密な製造・保存方法などから生産が難しいといわれてきた還元型の「コエンザイムQ10(CoQ10)」について、新たにγCDで包接した酸化型CoQ10とL-アスコルビン酸(LA)ヒタミンC)を同時摂取することにより、溶解性と吸収性が向上し、さらに体内で酸化型が還元型へ

と変換されることを確認した。今後、生体利用能の高い「吸収型CoQ10」として提案を推進していく方針だ。試験ではまず、CoQ10のγCD包接による溶解性の向上と、LAの同時摂取による酸化型から還元型への変換をそれぞれ人工腸液中で検証。その後、健常者12人を対象とした試験を実施した。人工腸液におけるCoQ10γCD包接体の溶解性については、食前と食後それぞれ

の胆汁酸とγCDとの結合によって、かい離したCoQ10が分子ミセル化し、吸収性が向上したとみられる。また、人工腸液中で調べたLAによるCoQ10γCDの酸化型から還元型への変換は、LAの添加量が多いほど有意に還元型に変換されることが確認された。

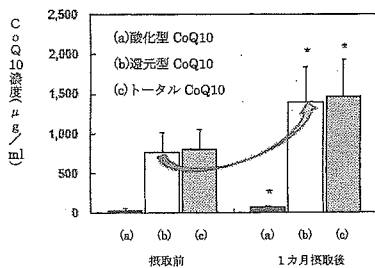
これらの結果を踏まえ、同社は健常者12人を対象とした試験を実施。酸化型CoQ10γCD包接体とLAを含有するサプリメント(1日当たりCoQ10として20mg)を1カ月間摂取。摂取前と摂取1カ月後を比較したところ、すべての被験者においてCoQ10の血中濃度が増加することが確認された。

その結果、食前人工腸液と比較して、食後人工腸液のCoQ10の量はおよそ20倍の溶解性を示すことが確認された。腸液中

と変換されることを確認した。今後、生体利用能の高い「吸収型CoQ10」として提案を推進していく方針だ。試験ではまず、CoQ10のγCD包接による溶解性の向上と、LAの同時摂取による酸化型から還元型への変換をそれぞれ人工腸液中で検証。その後、健常者12人を対象とした試験を実施した。人工腸液におけるCoQ10γCD包接体の溶解性については、食前と食後それぞれ

の胆汁酸とγCDとの結合によって、かい離したCoQ10が分子ミセル化し、吸収性が向上したとみられる。また、人工腸液中で調べたLAによるCoQ10γCDの酸化型から還元型への変換は、LAの添加量が多いほど有意に還元型に変換されることが確認された。

健常人12人にCoQ10-γ-CD包接体(100mg、CoQ10として20mg)とLA(150mg)配合したサプリメントを1カ月摂取した後



その結果、食前人工腸液と比較して、食後人工腸液のCoQ10の量はおよそ20倍の溶解性を示すことが確認された。腸液中

と変換されることを確認した。今後、生体利用能の高い「吸収型CoQ10」として提案を推進していく方針だ。試験ではまず、CoQ10のγCD包接による溶解性の向上と、LAの同時摂取による酸化型から還元型への変換をそれぞれ人工腸液中で検証。その後、健常者12人を対象とした試験を実施した。人工腸液におけるCoQ10γCD包接体の溶解性については、食前と食後それぞれ